

🌀 藤井寺市

いきいき笑顔応援プロジェクト研修会

いきいき笑顔さんが あふれるまちをめざして

開催記録

日時：平成30年3月7日（水）13:30~17:00

場所：藤井寺市立市民総合会館（パープルホール）小ホール

講師：株式会社ライフリー 佐藤 孝臣 氏

作業療法士 岡本 宗 氏

理学療法士 野崎 誠 氏

管理栄養士 時岡 奈穂子 氏

歯科衛生士 北川 まさ美 氏

薬剤師 北中 紀子 氏



高齢介護課

参加者

総数 104名 (ケアマネジャー42名・訪問サービス15名・通所サービス13名・施設サービス8名・地域包括支援センター9名・ほか(管理栄養士・歯科衛生士・薬剤師・看護師・保健師等)17名)

アンケートより

①本日の講義の感想をご記入ください。

多職種連携の必要性

- ・多職種との連携の必要性など今後について考えさせられました。
- ・専門職の方のお話を聞かせて頂き、細かいことに注意し利用者様の状態を見落とさないようにすることが必要と思いました。
- ・多職種連携を行うことで、利用者の可能性が引き出せると感じました。
- ・多職種連携の重要性を再確認できました。もっと専門職の方と意見交換出来れば、利用者様の質が上がると感じた。
- ・専門的な目線で見ると、自分が考えもしない事に気付かせてもらえ、こまめな連携を心がけたいです。
- ・口腔ケアや薬のこともケアマネはなかなか気付かないことが多いので、連携の重要性も再認識できた。
- ・他職種の目の付けどころ、ケアプランについて知ることができ、とても勉強になりました。
- ・自分の関わりを見直すことができました。
- ・前回同様、連携の大切さを考えました。日々の自分の行動について連携を図っているのかを思いながら仕事をしています。
- ・専門職からの意見を聞くことで、アセスメントの展開につながる事を学びました。
- ・もっとしっかりアセスメントしなくちゃと思いました。
- ・アセスメントの大切さを痛切に感じることができました。専門職の方との視点の違いも大きく、今後は積極的に関わっていけそうです。
- ・医療職の視点・見立てからのケアマネジメントが適切に話し合われ、より良い知識を得られ、とても良かったです。
- ・「多職種の間をやることで、元気になっていく人がいるのに、おせっかい型の支援をすることで、重度化することもある」ということがよく分かりました。
- ・他職種の連携がなかなかできないことが多く、改めて大切であると感じました
- ・多職種連携の必要性を感じるとともに、自分が専門職としてもっとチームに発言していけるようにしたいと思いました。
- ・もっともっと聞いていたい、何回も振り返ってみたいと思った。形ばかりのことをやっている気になって反省する部分もあった。
- ・デイサービスの中では気付けないことも多く、良かったです。
- ・私の仕事はケアマネジャーからの情報から計画を立て、ヘルパーの仕事に結びつける仕事なので、立場の違いの仕事を勉強させてもらいました。アセスメントの大切さも…。
- ・もちはもち屋に聞くことが大切。
- ・同行訪問することで幅広い深い提案助言ができることは良いと思った。
- ・多職種のアセスメントポイント、同行訪問のシステムが素晴らしいと思いました。(他市)



自立支援について

- ・ 昨年に引き継ぎ、佐藤先生の講義は引き込まれました。ケアマネ自身が信念をもって、利用者さんが元気になることを信じるのは本人にとって良いことだと思う。「してあげる」から「自身で行っていく」ことが最善であるとの意識改善が必要であることを再認識しました。
- ・ 適切なアセスメントをとり、個々の生活をしっかりと把握し、自立支援の考え方をご利用様やご家族様にも理解して頂くことで取り組んでいけることだと感じました。
- ・ サービスに頼らない、支援する人の心を動かすアプローチ方法を学び直したいと思います。
- ・ 介護サービスを卒業できればと思いました。
- ・ 「利用者さんに元気になってもらうプラン」、改めて考えさせて頂きました。大変良かった研修でした。
- ・ 国民の努力及び義務→第4条を改めて考えさせられました。利用者さん1人1人に声かけが必要だと思いました。その為にはしっかりとアセスメントが必要だと感じました。
- ・ 介護保険法 1条4条、改めて市民やケアマネ、サービス事業所等全ての人に理解と協力をしてもらうことが大切だと思いました。藤井寺市の介護保険が大変なことになってしまう…！

課題

- ・ 住民のニーズを地域のニーズとして解決していく必要性を強く感じましたが、事業所のケアマネジャーとして果たして可能なのか。講師の先生がおっしゃられたように市としての公言はありがたいです。ただ、市が先頭するのではなく住民の意志、総意が必要ではと思いますので、今後いかに地域とアプローチしていくか、考えていきたいと思いました。
- ・ 一般市民の方への制度理解は、国が保険者の責任で進めて行って欲しいと日々感じております。
- ・ 佐藤先生の講義の中にもあったように、何よりも住民への啓発活動や相談窓口での説明不足が大きな自立支援の阻害要因となっていると感じました。
- ・ 支援の卒業が目標なのに、それが事業として成り立たない理不尽さがある。卒業後の応援に、市として何ができるでしょうか？
- ・ 本当に利用者にとっては良いことですが、事業所がつぶれるようでは困ります。
- ・ 利用者様の介護度が軽減したり、できることが増えると、介護事業所・利用者様が Win-Win になれる環境ではないと思った。
- ・ 通所卒業という偉業の傍ら、経営が難しいなど、努力されているところがより見直されるような世の中になってほしいと思いました。



②専門職5名からのPRや、アセスメントのポイントを聞いて、新たな気づきや発見がありましたか？

気づきがあった

- ・専門職からの新たな気づきが支援者にとってよりよいサービスにつながると思い感心しました。多職種が関わるというのは、利用者の方にとっては凄い強みとも感じました。
- ・各職種からの関わり方など知らないことが多かったです。
- ・専門家としての意見があるが、すべてが同じ方向を向いている。
- ・皆さん専門職として自信を持っておられます。
- ・利用者の身近なニーズに振り回されてしまいがちですが、多方向からアプローチして、また多職種よりアドバイスを得ることの大切さを知りました。
- ・すべての職種において「指導」という形ではなく利用者に寄り添う視点が必要であることが新鮮でした。
- ・各分野の掘り下げ方が自分にはできないことが多く勉強になりました。
- ・自分にはない視点でアセスメントを見られていて、いろんな考え方が挙がることで全て生活改善につながっていくんだと思いました。
- ・どの職種も強みがあり、活用できれば素晴らしい。
- ・運動のみでなく、歯・栄養についても普段から意識する必要性を感じた。
- ・自分では気づかない別の視点のアドバイス、アセスメントがありました。
- ・ご本人の意向をよく聞き、現状を正確に把握した上で最初からハードルを上げた目標でなく今できることを積み重ねることで、結果ADLが上がるように持っていくことが大切と思いました。
- ・利用者さんとの“悩みの共有”“危機感の共有”が大切だと感じました。
- ・他市から来たのですが、専門職が相談に乗ってもらえるのでとてもいいなあと思いました。同行訪問がいいですね。
- ・各専門職の立場に立っての意見を聞かせて頂いて多職種の連携がIADLの向上につながる。より多くの情報を集めてプランニングしないとと考えました。
- ・ケアマネさん等への報告の内容が幅広くなると思います。
- ・専門職の関わり方、アセスメントのポイントが的確で是非、デイサービスに活かせればと感じました。
- ・OTさんは院内にいないので生活に沿った指導を考えられることに感動しました。院内でのカンファレンスでも取り入れたいと思います。
- ・専門外の栄養や薬剤、口腔のアドバイスは専門職に頼る方が効率的でよりよい支援につながると感じた。
- ・利用者や環境を見る視点が違う事自体が専門性なので、容易に学ぶ事が出来るものではないので、迷ったり困ったときには知恵をお借りするのが確実だと改めて感じました。
- ・専門職の視点から見ると、目の付け所が違っていたと思いました。総合力で支えていくことが必要だと思いました。



具体的な視点について

- ・糖尿病一つをとっても、それぞれの職種で異なる意見が出て、それぞれが利用者様を支援していく上で必要なことだったので協働の必要性を知った。
- ・動いています＝運動をしているではなく、その質や量が見合っているのかも必要と思いました。
- ・歯や栄養、薬に関して、トータルな視点を持つ事で改善できることがあると感じました。
- ・口腔ケアの必要性を分かっているつもりでしたが、本人様のお身体の色々なところに関わってくるんだと改めて感じました。
- ・歯科衛生士さんに口腔内の環境をもっと見てもらうべきと感じた。
- ・特に食について楽しみをもって頂く！！インテークでもやりやすいので今後は活用したいと思います
- ・栄養の視点を全く知らなかったことに気がきました。
- ・食べる行為ひとつで、歯科、薬剤師へとつながっていく事を改めて認識できた。
- ・栄養士から助言を受けることで状態改善につながる事を認識できました。
- ・口腔や栄養についてもう少しアセスメント時重視したい。
- ・口腔ケアの必要性ですが、利用者様の口腔内を見るのは開口して下さらない方もおられるので難しいと思います。スライドの写真を見てビックリです。
- ・食事や歯の大切さを改めて感じました。
- ・特に口腔へのアセスメントが今までしっかり出来なかったので今後意識する。
- ・口腔ケアと食事は同じくらい大切。改めて現場で見直そうと思います。
- ・管理栄養士の方とは連携したことがなく新しい気付きが持てました。
- ・体重過多やDHの問題は、アルコール依存やタバコの問題と共通するものを学びました。
- ・食べたらOK、薬飲んだらOK…と、取りあえず済ませていましたが、内容をしっかり把握していく必要があると思いました。
- ・薬のことはまったく分かりませんでした。飲んだらいいと思っていたところもありました。
- ・管理栄養士の先生の話がすごく印象的でした。地域の栄養士さんの活動を知ることができて嬉しかったです。実際のケースのことも相談したいと思いました。
- ・「その人に寄り添う」肥満＝食事制限と思いますが、受け入れ、共に考えていくことが大切ということが勉強になりました。また、実際に動作してもらってしづらさを具体化していくこともやっていなかったと思いました。
- ・専門職ならではの5通りの視点があり、例えばたんぱく質の摂取が少ないのでは？といった予測ができ、アセスメントを深めていくことができると感じた。



課題

- ・事例検討ではアセスメント領域がくっきり分かれていた。ケアマネが視野を広げるにも限界がある。専門職の視点は重要。
- ・時間をかけて情報の収集ができなく、アセスメント力を高める必要があるなあと思いました。
- ・アセスメントツールがあればもっとよいと思いました。
- ・本人からの聞き取りが正しいかどうか確認って、どこまで出来るか。
- ・専門職と実際に連携できればよいのですが、本当に実践する上では様々なハードルがあるのではと感じた。

③グループで意見交換をして、新たな発見や気づきがありましたか？

- ・事例を通して意見を皆で交換することで気づきがあった。1人で考えず、意見交換の大切さを感じた。
 - ・栄養や摂食と OT、PT との関わりに関して話を深める事ができた。服薬に関して残薬の整理や投薬の確認の難しさを共有した。(ケアマネが利用者の医療情報を把握することが困難な場合がある。)
 - ・多職種の専門性の連携は必要だと感じた。少し話をしただけでも勉強になりました。
 - ・皆さん同じような思いを持っていて少し安心したのと、難しさを感じました。
 - ・Oさんの事例検討で、ケアマネ間では家族状況やO氏本人のうつ状態の程度に着目した。専門職視点も踏まえた橋渡し役になりたい。
 - ・栄養士の方から利用者が毎日何を食べているのか知りたいと話され、ケアマネがアセスするときに具体的に何をどれだけ食べているかは聞いていないと思いました。
 - ・病識、薬の内容を利用者が理解していないケースが多いことに驚いた。
 - ・薬の知識も大事だと思った。
 - ・要支援の方の薬とかあまり気にしてないことが多かった。もっと歯や薬に関心を持たないといけないと思いました。
 - ・ケアマネ、デイ（認知症）、栄養士、ヘルパー管理者の方、包括の方と多くの方と話し合えて良かったです。
 - ・痛みも経過をアセスメントし、しっかり要因を探る。内服薬の重要性。
 - ・ケアマネとヘルパーとの関わりを増やす⇒手間をかける必要性。
 - ・それぞれの専門分野を生かした多職種での支援の必要性を感じた。
 - ・各職種によって視点が違うことを話し合う必要性
 - ・それぞれの職種の中で専門部分があるので、連携でオールマイティーなアセスメントが出来るのではと思いました。
 - ・いつもと違う人がくる、専門職の人がくるという事で利用者の気持ちが違う時もある。(いつもより頑張る。)
-
- ・ケアマネの方はみなさん一人で抱え込んでしまうことが多い。
 - ・ケアマネさんは対象者全体のことを考えないといけないのですごく大変。
 - ・ケアマネさんの普段からのご苦労を感じ、一人ひとり違う考え方の利用者さんの気持ちを受けとめ、計画に反映することの難しさを再確認しました。
 - ・ケアマネさんの思っておられることが聞けて良かった。
 - ・ケアマネの方の温度差や対応が違うことで、連携が回りにくいことがあるとの意見がありました。
 - ・支援の方へのアセスメントは、専門職、本人、家族等意見が異なることが多いため困難な事が多いと感じた。
 - ・ケアマネジャーさんのプランに対し、サービスを行っているが、機能訓練指導員としてデイの職員としてその利用者の生活の課題点や提案ができるようにしていきたいと思った。
 - ・何でもかんでもケアマネはできない。アセスメントツールを考えて欲しいとみんな思っている。
 - ・ケアマネさんたちが他職種の意見を聞いて、自分たちの業務に取り入れようなど感じられていることに、いい研修だったと思いました。
 - ・管理栄養士さんが食事内容を聞くにも、個々の家庭のことに入り込むため難しい…と言っておられた。ケアマネの初回面談と同じで、初対面でなんでもアセスメントするのは難しいのだと感じました。
 - ・ヘルパーやデイサービスの職員は専門職と関わる機会がないが専門職と関わりたい、意見を聞いてみたいと切実に思っている。
 - ・口腔、栄養に関する気づきが多くあった。これらに容易に関わっていただける体制づくりが地域課題として挙がりました。



同行訪問について

- ・実際に同行訪問を依頼された方の話を聞け、利用者様に良い変化、前向きな気持ちが出てきたことを知ることができ良かったです。
- ・もっとプロジェクトを利用しなくては、専門職の意見を反映したプラン作成をしなくてはと感じました。
- ・とても必要なことだと感じます。(調整が難しそうですね…)
- ・色々な視点で見れるのでいいと思います。気づくことも多いのではないかと思う。でも中々実際には難しい時もあります。
- ・難しいだろうとは思いますが利用者の自立支援していけるよう必要かと思えます。

④多職種の連携を深め自立支援を促進していくことについて、あなたの考えを教えてください。

必要性

- ・これからの介護事業のあるべき姿であると思えます。
- ・連携を図ることで課題が見えてきて、それが本人の自立支援につながるるとともに、地域課題に結びついていくのだと思いました。
- ・自分自身でも自立支援とは何かということをしかりと噛みしめ、利用者様に自立していく事を認識してもらおうような関わりが必要と思えました。
- ・多職種の連携によりケアマネとしても勉強させていただけるので進めていってほしい。
- ・ケアマネとしての知識を深め、提案して行くことで、自立した生活ができるので、他職種との連携はとても重要と思えました。
- ・大切なことと思えます。自分の力のなさを感じます。
- ・専門職の目線でのアドバイスを頂きながら利用者にとって効果的な改善策やサービスの提供が行える。
- ・顔の見える関係づくり、一つ一つの課題に対しての現状の評価を専門職につけてもらいながら同じ目標に対しての目線を持つことが大切だと思います。
- ・意見を出し合い、話し合う場の必要性を感じた。
- ・最初の一步を踏み出せば、みんな始まり出しそう。
- ・多職種が集まり多角的な意見を出し合うことで本人を総合的に自立に向けて支援できる。
- ・どこに何を相談すれば良いか、普段の活動から多職種の方との顔の見える関係作りを今後も進めていきたいと思えました。
- ・顔の見える付き合いができると良いと思った
- ・どうしても1人で考えるには限界があり、視野も狭くなる。調べることも大事だが、色々な人に意見を聞くことで利用者のサービス向上につながると感じた。
- ・適材適所、ケアマネは一人ではないこと、何でも一人で決めないといけないと思込まないこと。
- ・ケアマネジャー一人では自立支援は難しい。関係機関で取組むことが大事であると思う。
- ・多職種の情報の共有が重要、今までは全てケアマネに報告して終わっていた。これからは、報告のみで終わらず、多職種の関係を深めていきたい。
- ・もっとケアマネの立場に立って、本当の意味のIADLを考え、自立を促す方向でサポートしていけたらと思った。薬剤師は、在宅ではもっと専門的なことで関わっていかなければならない。
- ・今まで栄養士が参加することが少なかったのも、もっと積極的に活動していけるような環境になってほしいと思う。
- ・管理栄養士として、支援に関わる機会を増やしたいと思うのですが、薬局では現在はあまり活動できていないため、声をかけて頂く機会を待つよりは、自ら在宅業務に同行する必要があるのかなと感じました。

活用・提案

- ・H30年から管理栄養士さんも一緒に訪問してもらえらることもあり、もっと多くの角度・視点から利用者さんのQOLを高め自立に向けていきたい。
- ・食事の面に疾病の関係性を見て栄養士さんと連携していきたい。
- ・グループの中で、同行訪問でうまくいったケースを何うことができた。良い面が学べて、必要性もあると思います。
- ・日程調整は難しいと思われませんが重要なことだと思います。
- ・いきいき笑顔応援プロジェクトの利用とは別に、多職種の方に気軽に相談できる、「医療・介護連携シート」のようなものがあれば良いなと思いました。
- ・サービス担当者会議以外で多職種と関われることは難しいと思っています。専門職が気軽に立ち寄り、専門図書や情報冊子が置いてありお茶会ができるサロンがあれば、顔の見える関係づくりができて地域活性化につながるのではと思います。
- ・専門職が集まってアセスメントを行った上で（または一緒に）地域のケアマネ等に委託すればいいのではと思います。
- ・他市の研修に参加して、自市にフィードバックしたいと思いました。
- ・この様な場を開いていただくことが大事だと思います。

課題

- ・なかなか、どのように関わってもらえるのかを難しく思っている。
- ・利用者、家族の意識を変えることが難しいと思います。
- ・佐藤先生のおっしゃる通り。住民理解。
- ・少しずつですが、意識してサービスをすすめていく様にケアマネジャーと相談をしていますが、本人様の反応をみても理解されていないことがあり、声かけ説明の仕方も難しいと思いました。
- ・多くのサービスを利用されている方よりも、変更や利用の少ない方の情報が集まりにくいと感じました。連携が大切ですね。
- ・連携は非常に大切なことだと思うが、連携するための手段・方法がもっと身近にあればと感じた。
- ・良いことだと思いますが、本人・家族の意向はもちろん、佐藤先生が言われていたように、事業として運営の難しさもあるので悩んでしまいます。
- ・通所リハで自立支援を促進して卒業となるのは良いことではあるが、営業面でどうなの？という課題が残る。
- ・健康な高齢者が増えれば仕事が減る。



⑤藤井寺市という「地域の実情」において、高齢者の自立支援のためにあなたの考える地域課題や、作り出すべきサービス・仕組みなどのお考えをご自由にご記入ください。

住民へのアプローチ

- ・市民教育、市民へのアプローチ
- ・佐藤先生が提言されていたように市民に対しての意識改革を行ってほしい。また、自立支援に対する市独自の報酬も必要。
- ・住民向けの啓発は必要と思います。広報で「地域の実情」をお知らせしているのは大変良いと思います。本当に介護認定を受ける必要があるのか、窓口や医療機関等で伝えてもいいのではと思います。
- ・市民啓発 元気なうちから運動する習慣 元気になる体づくり
- ・介護保険等について知らない方も多く、デイサービスに直接来られる方が月に数人おられます。

移動支援

- ・移動支援、歩いていける範囲に参加できるコミュニティがあれば活動性を高めることができる
- ・移動手段の確保（循環バスの充実）etcが課題
- ・送迎サービス

居場所づくり

- ・気軽に行ける、運動やおしゃべりができる場所
- ・閉じこもりの方を地域の中に出していく方法を考えなければいけない。
- ・ふらっと行ける居場所がたくさんあること。
- ・自立支援のため、高齢者が出かけられる場所が藤井寺市には少ないように感じます。
- ・総合事業を卒業された方々がゆく先はどうするのかの検討が必要。

認知症

- ・認知症の方が増えている、予防として住民の方に勉強会の場が多く有れば良い。
- ・免許証の返上しやすい、返上したことでのメリット（認知症高齢者等の対策）
- ・認知症についてこれからどうなっていくのか不安

地域全体

- ・市が小さいのでまとまって色々やれたらと
- ・商工会や企業と連携してまると藤井寺を活性化していくシステムづくり。ボランティアが組織化しやすいようにハードルを低くし、地域づくりを支援するシステム
- ・町会の活用も大事

生活支援サービス

- ・他市にある制度でいいものは取り入れて欲しい。例えばゴミ出しサービス
- ・何でもサービス（ワンコインサービス）等
- ・食育教室
- ・高齢者、子供を結びつけたサービス
- ・定年以降の元気な高齢者が収入を得られる場所作り
- ・少しでもお元気な高齢者の方が楽しく年を重ねていけるサービス・仕組みが出来るといいと思います。
- ・社会資源をもっと発掘すること！オープンに住民に知らせること！

その他

- ・法人では社会貢献事業をしているが、独居が多いので地域見守りにもっと力を入れていけたら…
- ・事業所の連携は必要ですが、個々のつながりが出来る場をもっとあればよいと思います。
- ・地域ケア会議を開く⇒多くの人と顔見知りになり、情報と知識を得ると利用者にとっても利益になる。社会性も上がる。
- ・藤ネットの利用拡大かそれに変わるツール

⑥その他感想

- ・この制度はとてもいいと思うので他市にも広がっていけばいいと思います。
 - ・今までまだ使ったことがないので、使い方等をしっかり理解し、活用していきたいと思いました。
 - ・いきいき、今後も活用していきたいと思います。
 - ・今後、どんどんこのシステムを活用していきたいと思います。
 - ・訪問Cの利用方法考えていきたいです。
 - ・次年度からの総合事業がうまくいくよう協力したいと思いました。
 - ・市の行政としての動きに今後も期待させて頂いております。
-
- ・高齢者が増加して大変になるとつくづく身に染みる講義でした。
 - ・いきいきを使おうと思ったことはありますが仕事が増えるような気がして考えてしまいます。
 - ・介護度の軽度化に貢献したケアマネにインセンティブを。
 - ・藤井寺市民でもありますが、このようなプロジェクトの存在も知らなかったなので、もっと広報に力を入れてほしい。
-
- ・藤井寺のいきいき笑顔応援アセスメントシートは、細かいところまでアセスメントがとりやすくなっている。他市ではないと思い感心しました。お土産をたくさん頂きました。ありがとうございました。(他市)
 - ・元気アップポイントの発想がすばらしいと思いました。(他市)
 - ・アセスメントシートの作成(簡略)等で情報の共有がより幅広くできるようにできていることが良いと思います。(他市)
 - ・在宅医療・介護連携支援センターで栄養指導のことも相談できることが分かりました。
 - ・若い方が頑張っているいきいき笑顔応援プロジェクト研修会をして下さっているのを見て、未来は明るいと思いました。
 - ・地域性を感じました。藤井寺市の方は熱い方が多いと思いました。
 - ・ケアマネさんとの交流が何より。ネットワークを作れたら…と。
 - ・利用者様の自立支援に更に関われるように日常業務の中で少しずつ努力したいと思います。
 - ・このような研修会は、ふだん気付かないことや忘れてしまっていることなど、考えるチャンスになります。ありがとうございました。

